

令和7年3月12日

目黒区教育委員会教育長 宛て

目黒区立五本木小学校

校長 海老江 直子

令和6年度 目黒区立五本木小学校 学校評価報告書

1 学校評価委員会の実施内容

(1) 第1回実施日時 令和6年9月28日(土) 午前11時00分～午後0時30分

- ・令和6年度の学校経営方針について
- ・令和6年度の教育活動について
- ・学校の様子
- ・給食の試食 等

(2) 第2回実施日時 令和7年2月8日(土) 午前10時00分～午前11時30分

- ・令和6年度の学校評価の結果について
- ・令和6年度の教育活動について
- ・学校の様子 等

2 参加者

川北 雅夫 (五本木住区スポーツ振興部長)

上田 秀穂 (本校元校長)

望月 昇 (目黒ユネスコ協会副会長)

有賀 友紀子 (主任児童委員)

上野 勇 (本校元PTA会長)

3 評価の結果等

※四者…児童・生徒、保護者、地域の方、教職員のこと。

| 評価項目   | 四者※による学校評価アンケートの結果分析<br>◎ (成果)、● (課題)、<br>⊙ (成果と課題の両者を含む)   | 次年度の教育活動の改善点  | 学校評価委員会での意見   |
|--|---|---|---|
| <b>I 学校全体について</b><br>・学校の雰囲気、学習環境、教職員の態度などについて、家庭・地域との連携、地域人材の活用などについて | <u>学校の雰囲気</u><br>◎児童の「学校は楽しいですか」に対する肯定的評価が2ポイント上がった。高学年と保護者では9割を超えている。一方で、1年生の学習環境づくりに課題があると考えられる。<br><br><u>教職員の対応</u><br>◎児童の「先生は話を聞いてくれますか」に対する肯定的評価は9割を大きく超えており | ・本校のよさである高学年を中心に、落ち着いた雰囲気を今後も継続するとともに、低学年の指導にもきめ細かく対応し、教職員全体で児童を見守り育てる姿勢で連携しながら落ち着いた環境づくりに努めていく。<br><br>・教職員間で児童の様子を共通理解し、複数で対応策を考えることで、児童が納得し、次への取 | ・他校と比べ、教育環境が安定していると感じる。教職員の皆さんが全体でよく取り組んでいるのが分かるので、今後も継続してほしい。<br><br>・先生方が一生懸命に授業している。若い先生方と児童との距離が近いのが心配になったが、逆にそれが児童からの信頼に結び付いていることが分かった。今後も |

|   |  |   |  |
|---|--|---|--|
|   | 区の平均からも３ポイント程度高い結果となった。  | 組に積極的に行動できるように働きかけるようにしていく。   | 児童との人間関係を上手に築いてほしい。  |
| <b>Ⅱ 教育目標について</b><br>・教育目標、時程、教育内容全体について教育目標について                              | <b>教育目標</b><br>○評価は３ポイント程度上がった。特色ある本校の教育目標の主旨を踏まえながら学校経営方針を示した効果も考えられる。<br><br><b>教育活動全体</b><br>●児童の「あなたは小学校が好きですか」に対する９割程度で、昨年度とほぼ同等の評価である。今後も、全員が「好き」と言えるように、課題と対応策を整理して対応する必要がある。 | ・今後も教職員が教育目標の特色やよさを意識し、授業や学校行事、保護者会等でその主旨や関連事項について発信するようにする。<br><br>・魅力ある教育活動の計画と実践に努めるとともに、学校に登校できない児童の実態を把握した上で迅速に保護者や外部支援機関等と連携を図り、児童に寄り添ったきめ細かな対応をしていく。 | ・児童が世界に視野を向けられるような取組に結び付いている。<br><br>・来校した際に、児童や教職員、保護者もみな必ず挨拶をしてくれるのは、五本木小学校の素晴らしいところだと感じる。<br><br>・教育活動の中で、守らなければならないことは、分かりやすい言葉を使って、繰り返し発信することは大事。今後の指導に期待したい。 |
| <b>Ⅲ 心の教育について</b><br>・道徳科（道徳）の授業の充実や児童・生徒の道徳的实践力の向上に向けた取組について                 | ◎保護者からの評価は３ポイント程度上がったが、高学年児童の評価が５ポイント程度下がっているのが課題である。人権教育について研究を深めてきたが継続的に取り組む必要がある結果となっている。   | ・今後も人権教育を意識できるような取組や道徳科等の指導の充実に努めていく。また、ふれあい月間等の取組では、いじめについて重点を置き、未然防止や早期発見ができるよう、生活指導部会や学校いじめ対策会議を開催し、スピード感をもって対応するようにする。                                  | ・心の問題は世の中であんなに学べないもの。体験活動等を重ねることで、それが児童の心に響くものなので、学校での体験活動を大事にしてほしい。<br><br>・デジタル機器の導入で、それが心の教育にどのような影響が表れているか、来たるデジタル社会に向けて検証できるとよい。                              |
| <b>Ⅳ 学習指導等について</b><br>・学力の定着・向上に向けた授業の改善・充実、少人数指導、〇〇タイム、主体的に学習に取り組む態度等の取組について | ○児童の「学校の勉強は分かりますか」に対する評価は９３％程度で、区の平均と比べても高い結果となっている。   | ・教職員の指導力向上を図るとともに、落ち着いた学習環境を整えるべく、学年間での交換授業や支援員等の配置等を通じて、児童が意欲的に学習に臨めるようにする。  | ・午前５時間制の導入で、どのような効果をもたらしたのか、集中力や学力の定着という観点でも、その成果や課題を明らかにしてほしいと期待している。   |

|  |   |  |   |
|--|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・職場体験等体験活動、自然宿泊体験教室、キャリア教育等の充実について</li> </ul>                           | <p><u>情報端末の活用</u></p> <p>◎学習用情報端末の活用については、保護者からの評価は5ポイント程度高まっているが、一方で情報端末を過度に活用することへの不安の意見が多数寄せられている。</p>                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・改めて学習用情報端末の使用ルールを徹底する。また、効果的な活用が図れるような取組を計画し、情報端末を活用した発表会等を保護者に参観する機会を設けたり、学年だよりや保護者会で学習の様子を発信したりすることで、保護者の理解を図る。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル機器の普及で、表現したものが共有できるよさがある。その影響で、人とのつながりや意見を交わし合う等がおざなりにならないように注意し、デジタル機器を活用するメリットを十分に生かしてほしい。</li> </ul>   |
| <p><b>V 体育・健康教育について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体力向上、健康の促進に向けた取組について</li> </ul>            | <p>◎肯定的評価は全体的に下がっているが、健康スポーツタイムでの取組やなわとび名人、ペースランニングは例年通り実施しているため、そのことを評価する記述がたくさん見られている。</p>                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も健康スポーツタイムでの取組を通じて、児童の遊びや運動促進の取組を継続させる。なわとびやランニング等の取組もさらに充実した取組にできるよう工夫を検討していく。</li> <li>・猛暑時には、体育館を交代で使用したり時程を入れ替えたりするなど調整し、年間を通じて運動機会の設定ができるよう工夫する。</li> <li>・健康や食育に対する記述が少なかったので、改めて取組の様子を積極的に発信する必要がある。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育的な取組は今後も継続して実施してほしい。猛暑対策は大変だとは思いますが、安全面に十分注意して取り組む必要がある。</li> <li>・食育に対する取組は、「牛乳の歌」を作っでも飲もうとする意欲に繋げる等、工夫した取組がなされているのが素晴らしい。</li> </ul>  |
| <p><b>VI 特別活動について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事の充実、異学年交流活動、クラブ・部活動の活性化などについて</li> </ul> | <p>◎保護者からは、昨年度と同様に、学校行事への期待とゲストティーチャーを数多く招聘していることへの評価が多数寄せられた。児童の評価は、高学年で95%程度と高く、学習発表会において主体的な活動が実践されたことへの表れであると考えられる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後もゲストティーチャーによる授業は継続できるように計画を立てて準備をしていく。運動会や展覧会、自然宿泊体験教室等の学校行事は、児童の考えやアイデアを尊重し、安全に配慮しながら生かすことのできる取組とする。</li> <li>・クラブ活動や委員会活動、縦割り班活動は、今後も児童の意欲や発想を大事にし、自主性を育てられるような指導を行う。</li> </ul>                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲストティーチャーを活用した授業は、デジタルだけでは得られにくい、人とのつながりやコミュニケーション等、大事な要素が含まれているので、今後も継続してほしい。</li> <li>・縦割り班活動は、上級生が下級生の手本となる機会であり、よき異年齢の関係が築かれている。中学校でも、先輩と後輩のよきつながりに結び付く等の成果が表れている。</li> </ul> |

|   |   |  |  |
|---|---|--|--|
| <p><b>Ⅶ 学校生活全般について</b></p> <p>＜生活指導＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活規律の徹底、いじめや不登校の現状と対応、教員の関わり方、特別支援教育への取組などについて</li> </ul> | <p>◎「落ち着いて学習している」と評価した保護者は7ポイント増えたが、実態としては、低学年で落ち着かない学級があり、改めて学習規律や生活規律という一面において、教職員間での情報共有をする必要がある。</p>                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>生活指導については、生活規範やいじめ、不登校の実態等について生活指導夕会で情報共有し、対応策を共通理解した上で組織的に対応する。</li> <li>教職員の校内委員会が中心となり、合理的配慮が必要な児童や不登校、長期欠席の児童への対応について検討する。スクールカウンセラーや外部支援機関等とも連携しながら、児童の気持ちに寄り添った対応を提案、実行する。</li> </ul>                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>多くの学級で生活環境が安定していると感じる。落ち着かない学級に対しても精一杯努力をしていると思われる。</li> <li>不登校児童が増えている実態は、小学校全体の課題である。不登校の児童がいれば、その状況に合わせてきめ細かく対応してほしい。また、中学校では別室登校の取組が行われているが、小学校でも導入ができるよう、スペースの確保等に努めてほしい。</li> </ul>                            |
| <p>＜防災教育・安全指導＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事故や災害に関する安全教育や情報モラル教育の充実、安全管理などについて</li> </ul>                                  | <p>○防災に対する取組は高学年で積極的に実施しているため、それが保護者の高評価につながっていると考えられる。</p> <p>●防災や防犯については、想定外の出来事が起こっている現状から現代に応じた設定で避難訓練の実施を望む意見があった。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>9月の学校公開では、引き続き防災寺子屋もしくは防災フェスタの実施を中心に置き、防災教育を推進する。本校の特色である6年生の防災検定や避難所体験等の取組については、さらに充実させ、防災意識を高めていく。</li> <li>避難訓練は他校の例も参考にし、あらゆる場面を想定した訓練を実践する。</li> <li>児童のトラブルの起きやすい休み時間には、今後も教員だけでなく主事も見守りに出て、事故につながらないように努める。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>防災に対する取組は、全国各地で数多く進められているが、実際に震災が起こった時に適切な行動ができるかどうかが大事。小学生にできることは、自分の身を自分で守る意識を高めること。自分事として考えられる取組にしてほしいと期待している。</li> <li>来校した際に、実際に地震が起きたことがあったが、放送がされる前に揺れを感じた児童が瞬時に机の下に潜る様子を見た。毎月の避難訓練の成果が表れていると感じている。</li> </ul> |

|   |  |  |  |
|---|--|--|--|
| <p>&lt;幼・保・小・中連携&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校や同じ中学校区の小学校との連携について</li> <li>・近隣の幼稚園・保育園との連携について中学校や同じ中学校区の小学校との連携について</li> </ul> | <p>○保護者の評価は17ポイントの向上が見られた。昨年とほぼ同様に取り組んできたが、小中連携活動についてホームページ等で発信したこと、学校行事に卒業生を参加させたこと等が評価の上昇につながったと考えられる。</p>                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中の連携については、学校行事等を通じて継続的に実施し、その様子をホームページ等で発信していく。保育園交流についても、その取組の様子を紹介したり、各学年の保護者会で話題に取り上げたりする等、積極的に発信していく。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生が小学校の学校行事や住区の行事等に参加する様子が見られ、とてもいい取組だと感じる。今後も卒業生を見守ってほしい。</li> </ul>   |
| <p><b>Ⅷ 情報の発信</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の情報発信の充実などについて</li> </ul>   | <p>◎「教育活動の様子を分かりやすく伝えている」に対する保護者の評価は5ポイント程度向上した。保護者連絡システム導入の他、校外掲示板の月一度の更新やホームページの学校日記の更新を随時行ってきた成果であると思われる。一方で、さらにホームページに情報を掲載してほしいとの意見があった。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの更新は、教職員の意識が高くなってきているので、今後も随時更新することによって、教育活動の周知や理解を求めたいと考えている。</li> <li>・学校からの通知については、ペーパーレス化がさらに進められるよう課題を検討し、保護者連絡システムやホームページ等の活用を含め、対応策を考えていく。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者連絡システムの活用が定着してきているようだが、逆に課題も見えてきている。学校だよりや学年だよりは添付ファイルで配信されているので、ファイルを開かないと見られない。緊急の連絡は、直接文面に通知内容を掲載して送信する方がいいのではと思われる。</li> <li>・ホームページの更新回数が増えているので、学校の様子がよく分かる。</li> </ul> |
| <p><b>Ⅸ 教員の人材育成について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の職務をとおして専門性と協働性の育成、教育公務員の自覚について</li> </ul>                                      | <p>○目黒区人権教育推進校として公開授業および事例報告会を開催すべく、全員が研究授業を実施して準備を進めてきたこと、また、月に1度OJT委員会を開催することで、指導力向上を目的とした研修を行ってきた。授業を互いに観察し、指導や助言をし合うことが定着できていることが評価につながった。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度も教職員一人ひとりの授業力の向上を図るために、全員が研究授業を実施できる取組を模索していく。また、月に1度のOJT委員会を継続して設定する。</li> <li>・校外研修に積極的に参加し、学んだ指導方法の校内への還元研修を実施する等を通じて教職員の指導力の向上につなげる。</li> </ul>             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員希望の人材は減少し、教員や指導力のレベルの低下が危惧されている。教員の育成は教育界全体の課題。教科担任制や学年担任制等、指導体制についても工夫する余地がある。教職員が1つのチームとなって取り組んでほしいと期待している。</li> </ul>   |

|   |  |   |   |
|---|--|---|---|
| <p><b>X 教員の働き方改革について</b></p> <p>・校務支援システムの活用、「チーム学校」を意識した業務分担等、組織的な業務の効率化・最適化について</p> | <p>◎現状として定時退勤日を月に1日導入したことで、早めの退勤を心がける意識が高まった。計画的に職務に携わる教職員が増えたため、昨年度より平均超過勤務時間は減っているが、業務量は依然として減っていない。管理職も含めた検討が求められる。</p> | <p>・週1回の学年会を充実させ、教職員全員が負担感なく校務に取り組めるように計画を立てる仕組みをつくる。定時退勤日の設定は今後も継続しつつ、ひと月の超過勤務時間が60時間を超えないよう声をかけることで、教職員の勤務時間に対する意識を高めていきたいと考えている。</p> | <p>・教員がゆとりをもって児童に対応することが大事。引き続き、できることから担任1人で悩むことなく、組織で対応していくとよいと思われる。学校組織の中で悩みや弱音等、何事も言いやすい雰囲気をつくることが求められる。</p> |
| <p><b>XI 服務事故の防止について</b></p> <p>・服務事故防止に向けた取組などについて</p>                               | <p>◎年に2回の服務事故防止研修を通じて、服務事故防止に対する意識が高まっている。現状としては、教職員同士で注意するよう声かけする様子も見られる。今後、形骸化しないように更なる手だてを考えていく必要があると考えられる。</p>         | <p>・今後も、年に2回の服務事故研修だけでなく、職員夕会での注意喚起や服務事故の記述の回覧等を通じて、服務事故を未然に防ぐという教職員の意識を高めていく。</p>  | <p>・日頃から精一杯教育活動を進められているので、服務事故には十分気を付けてほしい。</p>   |